# 北海道ツーリング・レポート

Riding HONDA FAZE 250cc

７月１９日　横浜から山形まで一気に 439 キロ、初日とはいえやはりしんどい。（山形泊）

７月２０日　内陸の横手経由を急遽変更し酒田・秋田経由で角館に向かうが、山形県内は天候不順で合羽を着て走行。
角館は江戸時代の風情を残す武家屋敷、桧内川堤のソメイヨシノ、街角のいたるところで見られるシダレザクラ、桜の季節に訪れたい。（「かくのだて温泉ねこの鈴」泊）

７月２１日　田沢・十和田湖畔、奥入瀬（おいらせ）渓流を眺めつつ八戸へ。奥入瀬は学生時代同和鉱業の小坂鉱山見学の折立ち寄ったところで、紅葉が素晴らしかったことが思い出される。やはり秋の紅葉の頃訪れたい。（八戸泊）

田沢湖

７月２２日　軍民共用の三沢空港近くにある三沢航空科学館を見学した。戦時中十和田湖に墜落し３年前引き上げられたゼロ戦練習機が展示されている。簡単なフライトシミュレータを試みるが見事に墜落。
多様な生物系を構成する小笠原湖を始め自然豊かな一帯は、人口も少なく、六ケ所村再処理工場や東通（とうつう）原発の核関連施設につながる。

宇曽利湖と賽の河原

むつ市から奥深い山道を約３０分、最澄の弟子慈覚大師円仁（えんにん）が開山したという霊場恐山に到着。三途の川を渡り入山すると、地蔵信仰を背景にした死者への供養の場として知られる菩提寺周辺は硫黄臭が鼻を突く岩肌に、各種地獄が散在、いわく血の池地獄、無間地獄…。水の色が美しい宇曽利（うそり）湖畔には賽の河原。数多くある水子供養の石積みには菓子・玩具が供えられている。出口付近のイタコ小屋の前では口寄せしてもらう女性達が順番待をしている。ちょっと胡散臭さもあるが、非日常を感じさせる霊場だ。（むつ泊）

恐山六大地蔵

７月２３日　マグロの一本釣りで有名な大間港からフェリーで函館へ。
市電に乗ってロープウェイで函館山へ。電車は長崎と違って距離別料金、五稜郭公園から 11 駅目十字街で下車￥230 円。山頂は日暮れてすし詰めの観光客、中国系多し。みなすごいすごいといって写真を撮ったらすぐ下山。（函館泊）

函館山からの夜景
ロープウェイ

７月２４日　五稜郭見学、幕末箱館戦争の経緯に興味を覚えた。洞爺湖へ向かう前に、北斗市郊外のきじひき高原へ。函館市街はもちろん、大沼国定公園、来春開業する北海道新幹線の高架線等を見渡すパノラマが楽しめる。

五稜郭

道央自動車道の洞爺湖 IC を見過ごし、鉄鋼の町室蘭までオーバーラン。港口をまたぐ白鳥大橋は横浜ベイブリッジとそっくり。伊達市経由洞爺湖へ。湖　の背後に羊蹄山が美しい。（洞爺湖泊）

きじひき高原からの眺望

７月２５日　支笏湖経由千歳から道東自動車道へ、ところがナビ情報が古く現在地を特定できない。夕張山地を抜ける「穂別トンネル(全長 4318m)」は、後に通る「えりも黄金トンネル」に次ぐ道内第２位の長大トンネル。夏でも寒いくらい。占冠（しむかっぷ）IC から富良野へ向かうが、終日の雨でラベンダー畑を探す気力がない。北海道に多いとほ宿（男女別の相部屋、地元食材のメニューに工夫を凝らした民宿）の一つ「かみふらの道楽館」に宿泊。夕食時ライダー仲間と懇談する。敦賀からフェリーで関西方面からも来ている。北海道は人気が高く、リピータも多く 10 回以上の猛者もいる。宿・訪問地、交通取り締まりなどの有用情報交換も。

室蘭白鳥大橋

７月２６日　晴れたのでラベンダー畑へ、そこらじゅういたるところに花畑が広がっているイメージを持っていたが、実際はごく限られた場所にあり、既に盛りを過ぎようとしていた。年にもよるが、旬は６月下旬から７月中旬がだとか。香料原料として刈り取る寸前で、観光用もある。

富良野
ラベンダー畑

旭川を抜け、日本海に面したサロベツ原野に沿って道道 106 号線駆け抜ける。あいにく利尻山は見えなかったが、信号やガードレールもなく人気の一直線絶景ロードだ。（稚内泊）

７月２７日　稚内からフェリーでまず利尻島へ。薄雲りだが、利尻山頂は姿を現さない。名物うに丼は￥4,000、高いのでパス。代わりにウニのにぎりを一貫食べるが、長崎のと異なり味に深みがない。

島内を一周し、再びフェリーで礼文島へ渡る。

メノウ浜の近くでカモメの写真を撮ってたら、自転車で駆けてくる美人に「こんにちは」と声をかけられる。なんと安藤美姫さんではないか。テレビのドキュメント取材中で、浜ではメノウ石採集のパフォーマンスを撮影していた。
北西端のスコトン岬のそばのとほ宿「星観荘」に泊まる。食後、宿主がミーティングと称して、客の一人一人に、自己紹介と礼文島でのトレッキング計画などを述べさせ懇談する。利尻や礼文に限らず、初夏の草花が素晴らしい北海道では、野山をトレッキングしなければ本当の魅力が味わえない。

７月２８日　稚内へ戻り最北端の宗谷岬へ。さすがに多くのバイクが集まっており、ナンバーも遠く関西から関東各地、福岡や高知もある。同じ横浜からの人と岬をバックに記念写真を取り合う。ホタテラーメンの昼食、美味。

オホーツクに沿ったクッチャロ湖畔のとほ宿「トシカの宿」に泊まる。ジンギスカンの食べ放題で、ラムを使ってるので肉が柔らかく美味。同宿のチャリダー（自転車でのツーリスト）の若者はよく食べること。荷を最小限にするため、ツーリングスーツのままで食事、早寝して翌早朝出かけて行った。1 日 100 キロ以上走ることもあるという。なかにはリュックを担いで徒歩のツーリストも。

７月２９日　朝食前にクッチャロ湖畔のキャンプ場を散歩していたら、ベンチでビールをうまそうに飲んでる人がいた。聞けば、定年後テントを車に積んでキャンプ地巡り、ここにはすでに３週間も滞在しているとのこと。北海道のキャンプ地は、環境もよく廉価（一泊 0－500 円）である。車にもベッドが設置されており、大小 4 個のテントを使い分けている。天気がよければ天井の高い大テント、設置場所が遠く不便なところは小テント、雨が降れば車載という具合に。悠々自適とはまさにこのことか。
オホーツク海沿いに、サロマ湖を経由して網走へ。途中の紋別付近で毛ガニ丼を食べる、美味。網走川にかかる鏡橋を渡ると名高い網走刑務所、現在は概ね刑期３年程度の受刑者が収容されている。(美幌(びほろ)泊)

７月３０日　知床半島、オシンコシンの滝を見て、知床横断道路への分岐を曲がらず、真直ぐ行くと、湿原の間に知床五湖が広がる。五湖すべてを巡るルートは、ヒグマ活動期なので安全のためガイド同伴で有料。時間もかかるため無料の高架木道を歩く。

「ホテル地の涯」の傍にある岩尾別温泉(無料の露天風呂)に入る。脱衣所もなく火照った体を近くの沢水で冷ます。

分岐点へ戻り、横断道路の知床峠で一休み、そこかしこに雪渓が残っている。

根室海峡側の羅臼(らうす)から海岸を知床岬方面へ進み、行き止まりで相泊(あいどまり)温泉(無料の露天風呂、日本最北東端)に入る。男女別にベニヤで囲っただけの簡素なつくり、湯船の底に敷かれた小石の間から熱い湯が湧く。隣の瀬石(せせき)温泉も波打ち際の岩場にあるが、こちらは囲いが全くないほんとの露天風呂(試す勇気なし)。

宿は羅臼の旅人の宿「とおまわり」、料理は元漁師の宿主が作る魚料理、量の多さに圧倒される。夕食後泊り客全員で「熊の湯温泉(無料の露天風呂)」へ、夜は宿主を交えて懇親会、ハゲ談議で盛り上がる。家族連れ、一人旅の若い山ガールや女性ライダーも同宿。

７月３１日　根室湾に沿って、納沙布岬へ。北方４島は霧で全く見えず。「返せ北方領土」の標語がむなしい。鈴木食堂で、生サンマ丼と花咲ガニを食べる。丼は美味。カニは生簀からすくって調理してくれたが、身の間に卵の白身のような脂が多量に浮いており、口に合わない。

釧路市内に入るとすぐ、391 号線を北上、釧路湿原を通って標茶(しべちゃ)町のとほ宿「なかまの家」に到着。川崎で働いていたが、釧路の自然が気に入り、30 年程前、牧場の牛舎を買い取り、自力で改造して作った宿である。その間奥さんは英語塾をしながら生活を支えたとのこと。娘さん(32)はいったん町で働いていたが、今は戻って跡取になった。暖房はまきストーブ、湧水を使い、テレビもなく、動物に囲まれ、自然に溶け込んだ生活を送っている。地元の新鮮な食材を使った料理もとても美味しい。常連客も多く、立川から来た山ガール(30)もそうである。

釧路湿原

なかまの家

放し飼い

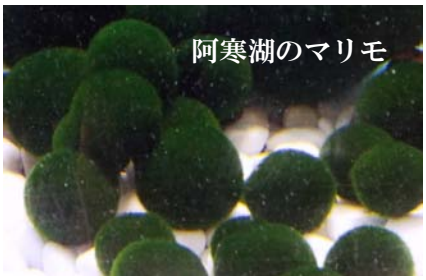
山ガール

ラジオで商船三井のフェリー火災を知る。大洗から苫小牧入港直前の事故である。

<u>８月１日</u>　霧の摩周湖は、その名の通り霧で全く見えない。環境保護基準が高く、湖畔に近づくこともできない。３か所ある展望台へのアクセスも結構大変である。屈斜路湖・阿寒湖は近くでキャンプしたり舟遊びができる。簡単に姿を見せない摩周湖は神秘的で、深窓の令嬢、いつかまた訪れたいと思う。

アトサヌプリ＝硫黄山（活火山）

足寄(あしょろ)IC から道東自動車道で、帯広へ。帯広周辺は取り締まりが厳しいと聞いていた通り、スピードを抑えた運転が多い。
地元の人に帯広名物は何かと問うたら「豚どん」というので、帯広駅ビルの店に入る。地方都市では駅ビルが一番立派で人通りも多い。山形、八戸、然り。首都圏の風景を見慣れていると、高層ビルも少なく、別世界の感あり。「豚どん」はウナギのかば焼き風にアレンジした味で結構いける。帯広には六花亭の本店があり、土産を買う。


阿寒湖のマリモ

バイク販売店レッドバロン直営の「バイクステーション帯広」に泊まる。トイレ・シャワーが共同で、洗濯機が無料で使え一泊￥2600。面白味はないが経済的。

<u>８月２日</u>　十勝広尾町を経て、太平洋岸の黄金道路を通り襟裳岬へ。風が強いと聞いていたが無風状態。先端近くまで昆布干しをやっている。「風の館」の望遠鏡でゼニガタアザラシを観測。えりも町のすし屋で近海で採れた新鮮な魚介類で握った寿司を食べる。襟裳の特産、アワビに似た食感の貝、真(ま)ツブがうまい。

襟裳岬

昆布干し

三石昆布温泉に入る。入浴後、昆布がなかったと店の人に言ったら、四つある湯船のうち一か所に昆布を袋に入れてつるしてあったそうで、残念ながら見過ごしてしまった。広尾町から海水浴に来てロビーで家族待ちの若い奥さんに、北海道の牛肉はこの近くでどこが美味いか尋ねたら、白老(しらおい)牛が有名というので翌日フェリーに乗船する前に足を延ばすことにした。

日高町から沙流(さる)川をさかのぼったところにある、平取町二風谷(にぶたに)アイヌ文化博物館は重要有形民俗文化財指定資料所蔵展示施設となっており質が高い。字幕付きで聞いたアイヌ伝承民話の録音が興味深い。時間がなくゆっくりできなかったのでもう一度訪れたい場所である。

日高牧場

宿は日高の競走馬飼育場近くにあるとほ宿「夢民村(むうみんむら)」。ここの宿主も北海道の自然にほれ込み、自力で丸太造りの宿舎を建造し、何十年も奥さんと二人でやっている。なかなか立派な造りでとても素人とは思えない。ロビーの書棚には環境保護や北海道の書籍がたくさんあり、自然環境に対する熱意が感じられる。アイヌ関係の本を借りて読んだが、とても興味深い。朝食の牛乳が美味い。

夢民村

定宿にしている、志摩から来た真珠の営業マンは、敦賀から苫小牧まで商船三井のフェリーで来たそうであるが、その船も苫小牧の近くで、例の火災事故のあったフェリー客の救助に一役買ったそうである。

８月３日　苫小牧を通過し、白老町へ行く。アイヌ民族博物館を見学、観光用にアイヌの踊りなどをやっている。韓国人が多いグループだったので韓国語の通訳を交えて説明していた。園内には中国人客や他の外国人客も大勢いる。サービス精神旺盛だが、商業化したアイヌ文化の紹介の仕方には多少の違和感を感じる。

牧草の刈り取り

アイヌ民族博物館

残念ながら白老牛は店が閉まっており試食できなかった。時間があったので登別温泉まで足をのばす。入浴料￥2,000 はちょっと高いが、一級の温泉街だ。

苫小牧に戻りフェリーへ乗船。事故があったフェリーはまだ鎮火していない。その船は深夜発の便だったので、幸い我々の便の運航には支障がない由。苫小牧発午後 6 時 45 分、大洗到着は翌日午後 2 時。夕朝食ビュッフェ合わせて￥2,400、内容もまあまあ。昨年利用した北九州－東京間のオーシャン東九フェリーはカップ麺の自動販売機だけだったので雲泥の差。部屋は雑魚寝のエコノミールームの一ランク上、相部屋１段ベットのカジュアルルーム。バイク込みで運賃は￥29,900。

商船三井さんふらわー丸

８月４日　定刻大洗港着。常磐道のつもりが、道を間違えて鹿島経由で潮来 IC から東関東自動車道へ。夕刻帰宅。罣了(疲れました)!!!

（あとがき）
天候にはあまり恵まれなかった(北海道にも梅雨があった)が、北海道の自然は一味ちがう。
夏の北海道には、日本各地から多くのライダーが訪れており、リピーターも多い。
ライダーに適した、魅力ある宿も比較的廉価で豊富にあることが分かった。
二輪車に積める簡易テントも市販されており、キャンプ地を利用する手もある。
今回もあらかじめすべての宿を事前に予約しておいたが、たいていのライダーは、その日任せで、前日くらいに予約を取るという。
次回はテントを買って、気ままな旅を楽しみたい。

【完】